

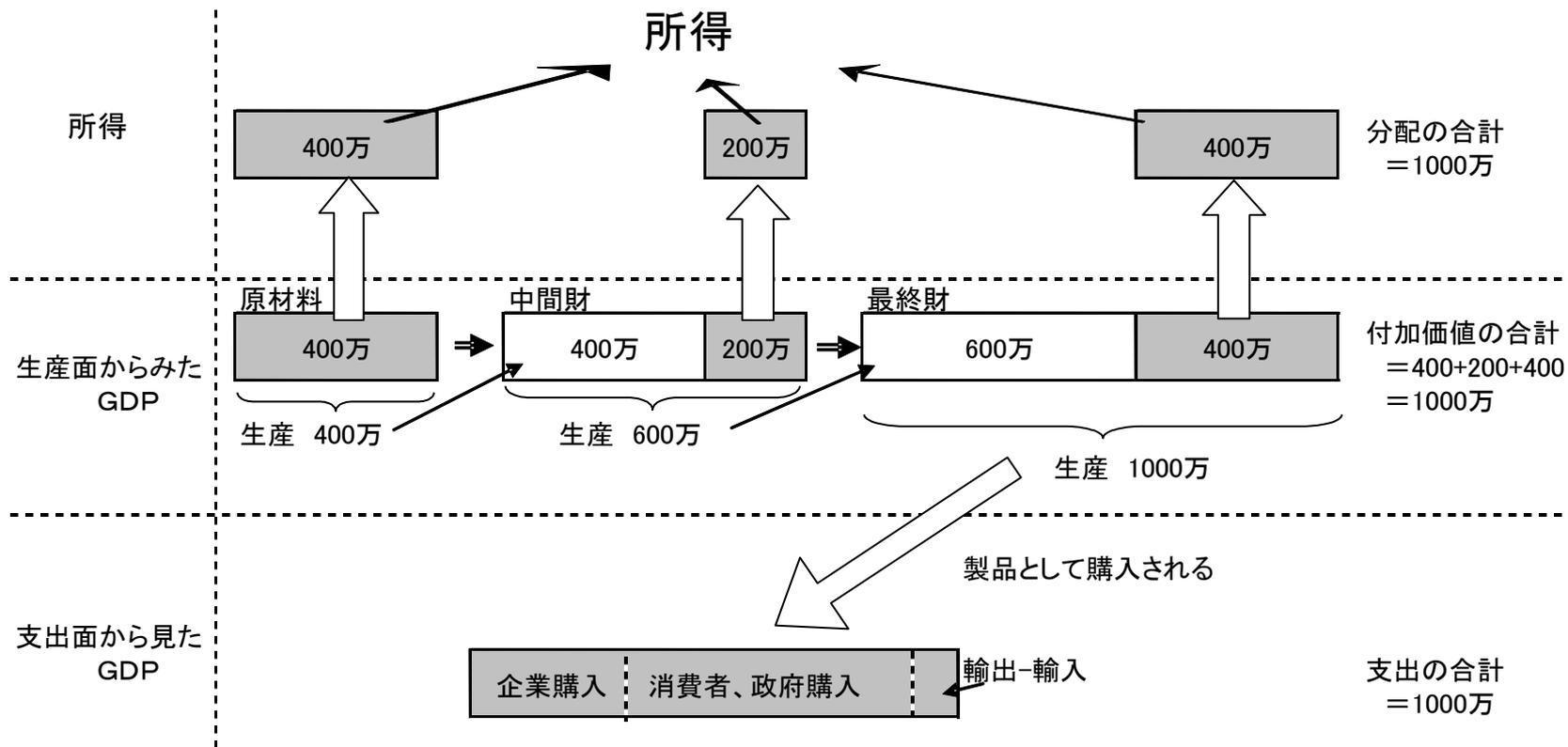
マクロ経済学A  
復習と練習問題  
再来週の小テスト準備

2018年5月15、22、29日

6月5日

第6～9回

# 生産面からのGDPは中段： 付加価値の合計



# 日本経済新聞18年3月8日付 支出項目ごとに内訳が出る

10～12月期の  
GDP改定値の内訳  
 (季節調整値、前期比の  
 増減率%、▲は減少、民間  
 在庫はGDP伸び率  
 にどれだけ影響したかを  
 示す寄与度ポイント)

	速報値	改定値
GDP (年率換算)	0.1 0.5	0.4 1.6
個人消費	0.5	0.5
住宅投資	▲2.7	▲2.6
設備投資	0.7	1.0
民間在庫	▲0.1	0.1
政府消費	▲0.1	▲0.0
公共投資	▲0.5	▲0.2
輸出入	2.4 2.9	2.4 2.9
名目GDP (年率換算)	▲0.0 ▲0.1	0.3 1.1

# ケインズ型消費関数

- 消費  $C$  を定式化する。 $C = c_0 + c_1(Y-T)$
- 実証結果によると、家計の消費は、税金  $T$  を差し引いた所得 ( $Y-T$ 、可処分所得という) が大きくなればなるほど、大きくなる。
- しかし、消費の増加分は、可処分所得の増加分ほどに大きくない。
- また、可処分所得がゼロに近くなっても、一定の消費は行う。さらに、所得自体がゼロに近くなっても消費は行う。
- $0 < c_0$  かつ  $0 < c_1 < 1$

# ケインズ型の消費関数のパラメーター

- $c_0$  を基礎消費という。これは、可処分所得がゼロでも消費しなければならない分であり、プラス。
- $c_1$  を限界消費性向という。これは、ゼロと1の間の数である。可処分所得が1円大きくなったときに、消費が何円増えるかという値。

# マクロの貯蓄

- 貯蓄 = 可処分所得 - 消費
- なぜ、貯蓄するのか。
  - 短期的には、不況など所得変動へのおそれ
  - やや長期的には、ライフサイクル(若年期と老年期には貯蓄を取り崩す、または、消費資金を借りる。壮年期に貯蓄する)。
- 日本やシンガポールは貯蓄率(貯蓄 ÷ 可処分所得)が高い。アメリカやラテン系の諸国は、この率が低い。

# 設備投資

- 機械設備を購入した金額（実質・名目）
- 生産能力増強のために、設備投資を行う。
- 設備投資の資金は、銀行などからの借り入れで行う。借り入れには、毎年利子を払う必要がある。
  - － 自己資金で設備投資した場合でも、利子はかかっているのと同じである。そのお金を金融市場で運用すれば、利子分だけもうかっているのだから（機会費用）

# 設備投資の決定要因

- プラス要因：設備投資を行うことにより収益率（どれだけ、生産能力向上による収益増が見込まれるか）
- マイナス要因：利子率（金利ともいう）＋減価償却
- 減価償却は、機械設備を一定時間使い続けることにより、機械設備の価値の減少をいう。
- 短期的には、金利が上がることで設備投資は下がる。

# 練習問題

1. ケインズ型の消費関数  $C = c_0 + c_1(Y-T)$  のパラメーターの値を述べよ。
2. 国民はなぜ貯蓄するのか。要因を整理して述べよ。
3. これから不況になると国民が心配した時、消費はどうなるか。
4. 設備投資の決定要因を述べよ。
5. 設備投資について、金利3%、減価償却4%のとき、設備投資の費用はどれだけか。
6. 金利が上がると、設備投資は増えるか、減るか。